



# 新入園児を迎える

—その抱負—

竹 中 京 子  
高 森 豊  
遠 藤 孝 子

## 新学年を迎えるに当って

—再建途上にある幼稚園の歩み—

竹 中 京 子

此の幼稚園に殆どその生涯を捧げられた坂内先生や、最後の時期を受けもたれた早塚先生の必死の努力にも拘らず、園舎の早期再建の見透しもつかぬまま、ついに休園の止むなきに至ったのであります。

民主国家として、再生する日本の数ある福祉政策のうち、政府の熱心な援助で、保育園の網が全国的に広まって行きました。

特殊な住宅区域の中に、住居を定めている方々によって、社団法人の事業として、昭和四年に創設された大和郷幼稚園は、理想的な私立幼稚園の一つとして、最も健全な発展を遂げてきたことは、容易に想像できます。

戦災は、山の手の住宅地帯にも遠慮なくもたらされて、評判の高かったこの幼稚園の園舎も、昭和二十年四月かい燻に帰してしまいました。

戦後の国民生活は、就学前の児童に対する保導の必要性を益々深め、幼稚園の必要が、子供を持つ殆ど全部の親にとり、身近かな問題となりました。

然しながら、六三制となった初、中級教育に対応する校舎の問題の解決が、程遠いものとなっておる現在、公立幼稚園の新設迄は、容易に進まない現状であります。

必然的に、私立幼稚園がさまざまな規模によって開設されました。公認を受けない、施設の不完全な幼稚園にも、父兄は競って大切な子供達を通わせているとも、いわれておりません。

此の間さきの両先生による大和郷幼稚園の再建運動は、絶えず続けられ、ついに大和郷会理事の方々の奔走によって、旧敷地の一部を売却した資金を基金として、及川ふみ先生を顧問に、又建設委員の方々に委嘱し、具体的な立案が進められたのであります。

建築費、二五八万円を以て、次のような園舎を新築し、昭和二十八年六月一日に再開することとなりました。

敷地面積	三八六坪一〇
構造	木造
園舎延坪数	八一坪一〇
保育室	一、一二坪
遊戯室	一、三五坪
使丁室	二坪二五
台所	二坪
廊下及玄関	二二坪八五
便所	八坪
収容園児は	
一年保育	四〇名

二年保育 五〇名  
各自の負担額は

申込金 三〇〇円(会員 二〇〇円)  
入園料 三、〇〇〇円(会員 二、〇〇〇円)  
保育料 七〇〇円

外に

教材費 三〇〇円  
施設費 二、〇〇〇円  
愛育会費 一〇〇円

と定まりました。

幸に大和郷会の有志の寄附によって、ピアノ、電気蓄音器、スライド、映写機、その他の計器等も一通り揃い、又開園直後結成された父兄愛育会の熱心な後援によって、ジャンダルジム、滑り台、その他の遊具並に煖房設備として、軽油ストーブ、ガストーブ、煉炭ストーブ等も備えられるに至りました。こうして比較的僅かな施設費にも拘らず、開園早々としては保育に事欠かぬ状態となりました。

又愛育会については、園当事者に対する父兄達による無形の激励は、各種の行事に際する真剣な奉仕ぶり等に現れていて高く評価されるべきものであります。

扱て復活してから一年間の総結算もつけねばならない時期が来るのですが、現在保育室が一室しかないので、二年保育

は遊戯室に五五名を収容している関係や、入園希望者の増加等、園舎の増築の問題が緊急となつてきました。

幸い新しい世代の教諭に対する信頼も不動のものとなり、健全な歩みも約束されたので、理事会において増築問題がよりより協議され、正式に次の園舎の増築が実施されることとなりましたが、比較的短期間に

保育室 三室 休養室（日本間八畳）

廊下 計四十四坪

新学年に當つて、二年保育六〇名、一年保育若干名の新入園児を迎えることとなりますが、増築の予定三室を加えた四室に各三〇名ずつを収容した上、遊戯室は解放して、常時利用出来ることとなり、幼稚園のスペースとしてはほぼ理想の形となります。

新学年に際し各幼稚園とも共通の悩みをもつて、心労される問題は、家庭以外の生活に慣れていない幼児に、幼稚園生活に親ませて、進んで登園する意欲を涌かせることであります。これは幼児の育つた環境によつて各種各様の傾向を示しておるもので、幼児一人一人について注意深く観察して取扱わねばならぬ問題であります。地方に於て、幼稚園においては、集団的なしつけが行われてからこれを両立させる保育の実際は仲々容易なことではありません。

ある指導者は、新入園児は少し宛小人数に分割して、入園

させることを適當とするとも言つておられます。然しながらこれは実際問題として実施困難であります。いずれにしても、基礎的調査を充分に行つて、入園児の入園以前の環境や素質、性僻、健康等について資料を作成して置き、常時これを参考として、個性に応じた適当な指導を行う必要があるように思われます。私自身は既に多年に亘つて保育生活から離れていて、戦後十年振りで幼稚園へ戻りましたので、戦後に育つた方々に教えられるところが多く、又保育の実際に対する研究は、戦前に比較になりません程高度に進歩していると考えておりますので、今後勉強を続けなければ、新しい教諭の方々にもついてゆけない次第で、保育について、語ることは遠慮すべきであります。唯一つ、昔も今も変らぬ大原則があると思ひます。

それは家庭の空気から、始めて離れた幼児の社会的生活に対する芽生えを、正しく伸すことが幼稚園に課せられております。このことによつて両親も、特に幼稚園に対して期待をかけ、その膝下から喜んで離して愛児を登園させることができず。そして多少とも戦後に比し生活環境にゆとりが少なくなつた戦後の市民生活に於て、特に家庭では困難な集団生活のしつけを、幼稚園に期待されることになりました。

例えば音感教育一つとりあげて考えてみても、これが幼児

の個性や人格を育てあげるとともに、市民生活に入った場合の、深い教養とつながっているものであります。

絵画を見る事によって、私達の周囲にある形や、線や、色彩の美しさを自覚するに至ると同じように、音楽を楽しむことから、自然生活の上に溢れている旋律や、格調の正しいリズムや調和を感知することが出来ます。

然も音楽を楽しむ心は、幼児の立感教育によつて、容易に培うことができます。

音感教育は、少数の選ばれた素質をもつたものには、天才教育の一端になるかも知れませんが、殆ど大部分のものに対しては、市民生活における教養の根を植えることとなります。

リズム教育は決して学芸会用のショウを準備することではなくて、幼児の情操と、筋骨を正しく発達させる第一階梯であります。

すべてのしつけも、決して功利的な形式的なものではなく性格の中に社会性を植えつけて、そのまま大人の生活の中に伸ばされることのできる事が必要であります。

個性が強いといえは偏破なものに思ひ、社会性があるといえは、上滑りのことを考えるのは誤りで、偏った特権意識ではなく、集団的な訓育によつて、絶えず向上する社会性を養うと共に、個人特有の、伸すべき長所は公正な判断を基礎と

して、できるだけ助長するということが、幼児保育の変らぬ原則でありまして、愛情にしても高度な技術にしても、すべてその原則に貫かれたものでなくてはならないと考えている次第であります。

(大和郷幼稚園)

### 入園時を前にして



高 森

豊

小さい胸をふくらまし、生れて初めての集団の生活にはいる子供達、限らない愛情の中、いとしい見へのお母様の嬉しい興奮、入園は実に可愛さにみち生氣に溢れ、希望に輝き、全く蘇る様な思をする。年々変る社会情勢、入園の激増、園内職員構成に、最も能率的に、合理的に教育のスタートを切る入園、去る年を顧み本年を思うと希望と緊張がみなぎる。

三月初旬入園募集、応募者への願書の配布、そして提出されたものを市立幼稚園共通の選考法をとる。只収容力と応募者のバランスがとれず、狭い門の變ある事は幼児教育者としての責任を思うと共に、幼児教育伸展のため施設拡充に努力し、地域社会一般にひろく幼児教育の必要の切実な事を啓蒙